

## 雑司が谷・東池袋界隈を歩く

東京メトロ丸ノ内線 新大塚駅 北改札前 集合・出発 JR池袋駅前で解散予定 約4.3km

1. **東京メトロ丸ノ内線 新大塚駅** 1954（昭和29）池袋―御茶ノ水の完成時に開業。  
丸ノ内線はその後徐々に延伸され、1959（昭和34）に全通。なお、新宿以西の荻窪線は1962（昭和37）に開通。
2. **春日通り**（国道254号線） 国道の拡幅事業のため、沿道建物の建て替えに際しては、拡幅後の道路境界線まで壁面の後退が義務づけられている。この15年で沿道の木造家屋はほとんど無くなった。一部の建物が老朽化したまま残っているのは、同所での建て替えがほぼできない状態であるため。新築マンションの前面に2、3階建ての低層部が出っ張っている場合もあるが、この部分は将来、拡幅が行われる際に取り壊すことを前提として、鉄骨造でプレハブ的に造られている。また、坂下通りとの間には、新大塚駅前から入る道以外には自動車が通行できる道がない。
3. **豊島区東池袋5丁目、新大塚駅そばの階段** 18段（下から10・8段） ビルと塀の間を通る。下部は急で狭い。
4. **豊島区立 鈴木信太郎記念館** フランス文学者、鈴木信太郎の居宅が2010（平成22）に豊島区に寄贈されたことを機に整備され、2018（平成30）に開館。以下の建物が豊島区有形文化財。**書斎棟**（1928（昭和3）竣工）は、RC造であるため戦災でも蔵書が焼失しなかった。一方、住居部分は木造だったため戦災で焼失。**茶の間・ホール棟**は、1946（昭和21）竣工。また**座敷棟**は、明治20年代に信太郎の実家（現在の春日部市内）に建てられた母屋を、1948（昭和23）に移築したもの。  
**鈴木信太郎**（1895―1970（明治28―昭和45）） 東京大学教授、同文学部長、中央大学文学部教授、東洋大学教授、日本フランス語フランス文学会会長などを歴任。長男の**鈴木成文**（しげぶみ、1927―2010（昭和2―平成22））は建築学者で、東京大学名誉教授、元神戸芸術工科大学長。戦後、公営住宅の標準型「51C」（ダイニングキッチン付公営住宅の原型）の設計に参加。亡くなるまでこの家に住んでいた。また、次男の**鈴木道彦**（1929―）もフランス文学者。
5. **区境を通り抜ける階段**（文京区大塚6丁目と豊島区東池袋5丁目の境界）  
28段（下から8・4・5・8・3段） 春日通りへ3段階で上る。細街路拡幅事業のため、途中に幅員の広い箇所がある。
6. **T字型路地の階段**（文京区大塚6丁目と、豊島区東池袋5丁目の区境） 下の階段部分の崖が区界。路地形成の詳細は不明だが、高台側と低地側双方の敷地内に造られた路地を繋いだのかもしれない。  
西側：7段 東側：19段（下から13・6段） 区界部：10段（下から3・7段）
7. **開運坂** かつて坂上に講道館の道場があり、師範（嘉納治五郎）が開運坂と命名したという。
8. **大塚坂下通り** 巢鴨拘置所へ至る道として造られた谷道の通り。東側に音羽川が流れていたが現在は暗渠化されている。通り沿いには最近まで多くの看板建築（木造建物の前面のみ洋風にした店舗など）が建ち並んでいたが、マンション等への建て替えが進んでいる。住居表示的には大塚5丁目だが、町会は旧町名の**大塚坂下町会**、**大塚坂上町会**のままで、地形的な区分に基づく町会が存続している。
9. **水窪川・音羽川**（みずくぼがわ・おとわがわ） 雑司が谷霊園の北側付近を水源として、坂下通り付近を通り、音羽の谷の東側端を流れ、神田川に注いでいた。音羽の谷の両側の小川は江戸期～明治期には紙漉ぎで知られ、工場や問屋が多かったというが、都市化に伴い、大正初期にはなくなってしまったという。
10. **豊島が岡へ上る階段** 下11・上26段（下から1・17・8段）  
**豊島が岡へ上る階段**（北側） 11段
11. **首都高速5号池袋線** 竹橋JCTから池袋を通り、埼玉県戸田市の美女木JCTに至る。全線開通は1993（平成5）。  
護国寺出入口周辺の西神田出入口～北池袋出入口は1969（昭和44）に開通。

- 12. 雑司ヶ谷霊園** 明治政府が自葬の禁止、神葬地の設定、旧朱引内での埋葬禁止、墓地令等の布告を行ったことから、共葬墓地が必要になり、東京府が東京会議所に墓地造営を命じ、1874（明治7）に雑司ヶ谷旭出町墓地が開設された。1889（明治22）に東京市の管轄となったのち、1935（昭和10）に雑司ヶ谷霊園に名称変更。現在は東京都公園協会が管理。  
ジョン万次郎、小泉八雲、夏目漱石、島村抱月、竹久夢二、泉鏡花、東條英機、永井荷風、サトウハチロー、東郷青児、大川橋蔵など著名人の墓が多くあり、夏目漱石の小説『こゝろ』の舞台にもなっている。
- 13. 夏目漱石の墓** 1867～1916（慶応3～大正5）      **永井荷風の墓** 1879～1959（明治12～昭和34）
- 14. 雑司が谷旧宣教師館・旧マッカーレブ邸** 1907（明治40）にアメリカ人宣教師のJ.M.マッカーレブが建てた自宅。マッカーレブは1941（昭和16）に帰国するまで34年間この家で生活した。豊島区内に現存する最古の近代木造洋風建築で、都内でも数少ない明治期の宣教師館。当時の新興住宅地における布教活動と幼児教育の拠点として、地域住民に記憶されている。  
19世紀後半のアメリカ郊外住宅の特色を写した質素な住宅で、木造総2階建て、全体デザインはシングル様式で、細部デザインはカーペンターゴシック様式。豊島区が1982（昭和57）に取得。調査、保存修理工事を行い、1989（平成元）から関連資料等を展示し一般公開を行なっている。東京都指定有形文化財。  
**シングル様式**：米国の北西部を中心に広く建設された建築様式で、外壁や屋根をシングル材（こけら板）で覆う。  
**カーペンターゴシック様式**：アメリカ独自の建築様式で、新大陸で身近に手に入る材料と技術を使って、ヨーロッパのゴシック様式を再現しようとしたもの（大工ゴシック様式）。  
**ジョン・ムーディー・マッカーレブ**（1861－1953） テネシー州ナッシュビル生まれ。1892（明治25）に新婚の妻デララと来日。築地・神田・小石川で伝道活動をした後、雑司が谷に移り住み、以後ここを拠点に太平洋戦争の直前まで布教を続けた。
- 15. 御嶽坂**（みたげざか） 御嶽山清立院のわきを上る。清立院に御岳蔵王大権現が安置されていることによる。
- 16. 弦巻川**（つるまきがわ） 西池袋1丁目の元池袋公園付近の湧水を水源として南東に流れ、山手線を越え鬼子母神の北側を流れる。雑司が谷1丁目を経て護国寺前で南に流れを変え、音羽通りの西側に沿って流れ、江戸川橋で神田川に注いでいた。池袋の地名はこの川の水源近くに多くの池があることに由来するとも言われる。1932（昭和7）に暗渠化された。
- 17. 都電荒川線** もともと王子電気軌道が敷設経営した路線だったため、戦前のことを知る人は王子電車と呼んだりする。  
1911（明治44） 飛鳥山－大塚、王子電気軌道の路面電車として開業。  
1925（大正14） 大塚駅前－鬼子母神前 開業。  
1928（昭和3） 鬼子母神前－面影橋 開業。その後も徐々に延長し、早稲田近辺は1932（昭和7）に開業。  
1942（昭和17） 電力統制と交通統制により東京市に事業譲渡。東京市電となる。翌年、東京都が成立し都電となる。  
1974（昭和49） 都電荒川線へ呼称変更。27系統（三ノ輪橋－赤羽）、32系統（荒川車庫前－早稲田）の2路線だったものを、三ノ輪橋－早稲田の直通運転とした。
- 18. 明治通りバイパス**（「環5の1」の一部） 混雑する池袋駅前を回避するため、池袋六又陸橋から千登世橋までを迂回するバイパスが建設中。既にサンシャイン付近の首都高高架下部分は開通。残りは東京メトロ副都心線の地上にて工事中。鬼子母神前駅周辺は、以前は住宅地の裏側を都電が走っていたが、買収が進み、両側に道路が建設されている。また、豊島区役所付近から都電学習院下駅付近までは、地下（都電の更の下）に片側一車線・往復二車線の道路が建設される予定だが、未着工の模様。
- 19. 東京メトロ副都心線 雑司が谷駅** 2008（平成20）池袋～渋谷が開業  
**都電荒川線・鬼子母神前**（きしぼじんまえ） 1925（大正14）開業
- 20. 大鳥神社** 江戸時代の正徳年間（1711～16）から鬼子母神の境内にあり、法明寺を別当寺として、鷲明神が祀られていたが、維新後の神仏分離により、現在地に遷座し大鳥神社と改称した。
- 21. 雑司が谷の七曲がり** けやき並木入口わきから本納寺方面へ抜ける屈折した道。

- 22. けやき並木** 目白通りから北へ入り、けやき並木を経て鬼子母神堂へ至る道が昔からの主たる参道。
- 23. 並木ハウス・手塚治虫旧居** 東長崎のトキワ荘（1953-54に居住）を出た後、1954-59に住んでいた場所。この頃、鉄腕アトムも画いていた。結婚を機に初台に転居。
- 雑司が谷案内処** 並木ハウスアネックス（1933（昭和8）築）に、2012（平成24）に開設。2Fにギャラリーがある。木曜休館。
- 24. 鬼子母神堂**（きしもじんどう） 法明寺の飛地境内にある堂。1561（永禄4）に現在の目白台の「清土（せいど）の畑」で鬼子母神像が掘り出され、祀られたのが始まりとされる。現在の社殿は1664（寛文4）の建立で、豪華な彫刻が施されている。拜殿が入母屋造、本殿が流造という変型の権現造だが、これは建設当初は相の間がなく、1700（元禄13）に付け加えられたため。東京都指定有形文化財。
- 鬼子母神** 毘沙門天の部下の武将、般闍迦（パンチーカ）の妻で、500人の子の母でありながら、常に他人の子を捕えて食べてしまうため、釈迦は彼女が最も愛していた末子を隠して子を失う母親の苦しみを悟らせ、仏教に帰依させた。以後、仏法の護法善神となり、子供と安産の守り神となった。盗難除けの守護とも言われる。
- 妙見堂** 鬼子母神堂本殿の背面に接して反対向きに祀られている妙見菩薩。
- すすきみみずく** 昔、病気の母親の薬を買えなかった貧しい娘が鬼子母神に祈ったところ、夢の中に鬼子母神が現れて、「ススキの穂でみみずくを作り、それを売って薬代にしなさい」と告げた。娘がその通りにすると、飛ぶように売れ、そのおかげで薬を買うことが出来たという。
- 25. 東京音楽大学** 1907（明治40）に東洋音楽学校として創立。日本の私立音大の中では最も古い。1969（昭和44）に東京音楽大学に改称。2007（平成19）100周年記念本館が完成（久米設計）。教員：池辺晋一郎、小林研一郎、三枝成彰、野呂一生、宮本文昭など。著名な出身者：淡谷のり子、春日八郎、辻井伸行（付属高）、宮本笑里、松下奈緒、池田理代子、黒柳徹子など。
- 26. 威光山 法明寺**
- 810（弘仁元） 真言宗威光寺として創建。
- 1312（正和元） 日源上人が日蓮宗に改宗し、法明寺に改称。
- 室町時代 鬼子母神が安置されて茶屋などが軒を連ね門前町を形成した。
- 1923（大正12） 関東大震災により、本堂が倒壊。
- 1932（昭和7） 本堂を再建。
- 1945（昭和20） 戦災により、全山焼失。戦後、本堂、書院、山門、鐘楼堂を順次再建して現在に至る。
- 27. 威光稲荷神社**（威光山稲荷堂） 800年頃、慈覚大師が行脚していると、雑司ヶ谷の森から一条の光明があり、これを辿ると素晴らしい姿の稲荷神が現れた。その光明が強かった事から威光稲荷大明神と名付け、堂宇を建立し安置したのが始まり。
- 28. 旧鎌倉街道 中道**（なかつみち） 宿坂からけやき並木を抜け、鬼子母神を経て、法明寺方面へ至る道は昔の鎌倉街道と言われる。
- 29. 南池袋二丁目B地区 市街地再開発**
- 共同住宅：A棟 57F・864戸・高さ約195m B棟 5F・14戸 C棟 6F・16戸、オフィス、商業
- 2022年度着工、2025年度の竣工を目指している。
- 30. としまエコミューゼタウン・豊島区役所**
- SRC・RC・一部S造 49F・B3F・R2F 高さ189m 2015竣工 南池袋二丁目A地区市街地再開発
- 1Fの一部、3～9F：豊島区役所 1Fの一部、2F：商業エリア 10F：中間免震階 11～49F：住宅（ブリリアタワー池袋）
- 設計・監理：日本設計、外観（一部内観）のデザイン協力：隈研吾事務所、ほか
- コンセプトは「自然と建物の共存」。樹木の様なビルをイメージし、敷地の周りには落葉樹を配し、1～9Fまでの外装には植栽を配し、太陽光パネルや、日射制御ルーバー、などを組み合わせた「エコヴェール」と呼ばれる装置で覆っている。また、9F屋上の「豊島の森」には、小川が流れ、ホタルが舞い、芝生や木々のある空間となっている。グッドデザイン賞、BCS賞受賞。

**31. 南池袋二丁目C地区 第一種市街地再開発事業**

共同住宅：北棟 52F・B2F、高さ190m 南棟 47・B2F、高さ182m 計約1,500戸、店舗、事務所、子育て支援施設等  
2026年竣工予定

**32. 池袋駅周辺戦災復興土地区画整理** 合計施行面積 81.05ha

駅東側 戦災復興土地区画整理10-1地区 1948（昭和23）事業認可 1960（昭和35）10.31 事業完了  
駅西側 戦災復興土地区画整理10-2地区 1948（昭和23）事業認可 1968（昭和43）7.6 事業完了

**33. 南池袋寺町** 池袋駅東口周辺の蟹ヶ窪という字の地域にあった寺院が、戦後の土地区画整理に際して移転し、南池袋2丁目に集積したもの。日蓮宗の本立寺、妙典寺、仙行寺、盛泰寺、日蓮正宗の常在寺の計5ヶ寺と、区立南池袋公園が一つの街区に納まっている。**34. 区立南池袋公園** 周辺の戦災復興土地区画整理事業によって、1951（昭和26）に開園。公園整備工事および地下変電所の建設のため、2011年9月から一部を除いて閉鎖されていたが、2016年にリニューアルオープンされた。敷地内にはカフェも設置され、整備後は以前より多くの人々が利用している。整備に際しては、賑わいを創出し地域の活性化を図ることを目的に、「南池袋公園をよくする会」が設立され、行政と地域が協働して公園利用のルールや公園の魅力向上に繋がる活動を話し合っている。**35. 「ヴェッセル：輝く器」東商ビル（設計：梵寿綱）** 1990（平成2）RC 6F・B1F**36. 「斐禮析：賢者の石」ルボワ平喜（設計：梵寿綱）** 1979（昭和54）SRC 8F

梵寿綱（ぼんじゅこう、本名：田中俊郎、1934（昭和9）ー） 早大理工建築学科卒業後、シカゴ美術館附属美術大学で学ぶ。1974（昭和49）より梵寿綱を名乗る。「日本のガウディ」の異名を持つ。

**37. グリーン大通り** 1937（昭和12）に池袋－護国寺間に開設された道。池袋駅東口から東南方向に伸びるこの道には1939～69（昭和14～44）の間、都電17系統が走っていた。都電の廃止後、線路跡に植栽を施した中央分離帯が設けられ、沿道にも街路樹が植えられたことから、後にグリーン大通りと命名された。**38. JR池袋駅**

1885（明治18）日本鉄道品川線開業（品川－赤羽）。その後、目白駅と田端駅を短絡する豊島線（目白－雑司ヶ谷－巢鴨－田端）が計画されたが、目白駅は地形的に将来の拡張に支障が予想されたため。池袋経由となった。

1902（明治35）池袋信号所開設。

1903（明治36）池袋駅が開業。旅客営業のみ。同時に豊島線 池袋－田端が開通。

1906（明治39）貨物の取り扱いを開始（1980（昭和55）取り扱い廃止）。鉄道国有法により国有化。

1985（昭和60）埼京線運転開始。

1991（平成3）成田エクスプレス運転開始。

1992（平成4）跨線橋とメトロポリタン口を新設。

2001（平成13）湘南新宿ライン運転開始。

2006（平成18）東武日光線直通特急「スペースシア 日光・きぬがわ」が運行開始。

**西武池袋線池袋駅・西武百貨店池袋本店**

1915（大正4）武蔵野鉄道線（現・西武池袋線）の池袋駅が開業。

1935（昭和10）白木屋（1662年創業）と京浜電気鉄道が共同で設立した京浜百貨店が、京浜デパート池袋分店として、菊屋デパートを池袋駅東口に出店。

1940（昭和15）武蔵野鉄道が菊屋デパートを買収。武蔵野デパートと改称。

1949（昭和24）武蔵野デパートを西武百貨店に改称。当初は木造モルタル2F

1952（昭和27）西武百貨店第一期開店。その後、増改築を繰り返し、大規模なターミナル型デパートとなる。

1975（昭和50）西武美術館開館。1989（平成元）にセゾン美術館に改称。

1999（平成11）セゾン美術館閉館。イルムス池袋を池袋西武にオープン。

## 東京丸物・パルコ

- 1953 (昭和28) 国電池袋駅ビルの建設を目的に、池袋ステーションビル株式会社設立
- 1954 (昭和29) 丸物が池袋ステーションビルに資本参加。
- 1957 (昭和32) 東京丸物が開業
- 1958 (昭和33) 村野藤吾の設計による東京丸物の建物が完成。RC造 8F・B3F・R3F
- 1968 (昭和43) 西武百貨店が隣接する東京丸物 (池袋ステーションビル) を買収し、再建に乗り出す。
- 1969 (昭和44) 東京丸物が閉店。パルコ (後にセゾングループを離脱し、現在はJ.フロントリテイリング傘下) となる。

## 【周辺の町名など】

**大塚** (文京区) 文京区大塚1-2の貞静学園の場所に、昭和初期まで高さ5尺ほどの塚があり、古墳だったとか中世の塚や物見櫓の跡だったともいわれてきた。江戸期の資料にはこの塚が大塚の由来だと記されていたという。小日向台北部の広い範囲の地域名となり、現在は文京区に大塚が、北側の豊島区には南大塚と北大塚がある。

**雑司が谷** (豊島区) 由来は諸説あり、「新編武蔵風土記」には、法明寺あるいは小日向にある金剛寺の雑司料 (税や物資を納める支配地) だった、宮中で (雑用を司る) 雑士だった者がこの地に移り住んだ、などが記されている。また「雑士」「蔵主」「僧司」「曹子」など、さまざまな字が当てられて紛らわしいので「雑司ヶ谷」に統一するよう、八代將軍吉宗が命じたとも記されている。

**池袋** (豊島区) 池袋駅西口のホテルメトロポリタン一帯にあった袋の形をした池が、袋池 (丸池) と呼ばれており、それが地名の直接の由来となったとされる。近年までホテルメトロポリタン北側に空池 (からいけ) の状態で残っていたが、現在は完全に埋め立てられ、地名由来とされる池を偲んで隣接地に元池袋史跡公園が開設された。

**東池袋・南池袋** 一帯は、江戸時代には旗本三千石中西公の拝領地であったために「中西の森」と呼ばれていた。中西氏が延宝期 (1673~80) 以前から1802 (享和2) まで長期間拝領したため、拝領者が替わっても中西の森と呼ばれた。

明治末頃、この中西の森を実業家、根津嘉一郎が買収すると、一帯は「根津山」と呼ばれるようになった。根津山は現在の豊島岡女子学園あたりにあった小さな丘をさすが、周辺を含めた呼称ともなった。1937 (昭和12) に池袋-護国寺間の道路開通で森は分断され、徐々に市街化が進行。太平洋戦争中は大規模な防空壕が造られ付近の避難場所ともなった。

**根津嘉一郎** 1860-1940 (安政7-昭和15)。38歳で山梨から上京し、株で成功し東武鉄道、富国徴兵保険会社などを経営した根津財閥の創始者。衆議院議員、貴族院議員なども務めた。根津美術館は同氏の収集品を展示するために造られたもの。

## 参考文献・参考サイト

- 『今昔東京の坂』岡崎清記、日本交通社出版事業局、1981
- 『江戸東京坂道事典』石川悌二、新人物往来社、1998
- 『東京の階段』松本泰生、日本文芸社、2007
- 『川の地図辞典-江戸・東京23区編』菅原健二、之潮、2007
- 『江戸・東京地形学散歩』松田磐余、之潮、2008
- 『凹凸を楽しむ 東京坂道図鑑』松本泰生、洋泉社、2017
- 『川跡からたどる江戸・東京案内』菅原健二、洋泉社、2011
- 『甦った東京 戦災復興区画整理事業誌』東京都
- 『凹凸を楽しむ 東京「スリバチ」地形散歩』皆川典久、洋泉社、2012
- 『東京古道散歩』荻窪 圭、中経文庫、2010
- 東京23区の坂道 <http://www.tokyosaka.sakura.ne.jp/index.htm>
- 坂学会 <http://www.sakagakkai.org/>
- 猫の足あと-東京都・首都圏の寺社情報サイト <http://www.tesshow.jp/index.html>
- 東京の斜面地空間 東京の階段 <http://tokyostair.web.fc2.com/topo/index.html>
- 東京の階段 DB <http://blog.goo.ne.jp/tokyostair/>
- 都市徘徊Blog <http://blog.goo.ne.jp/asabata/> 他、Wikipedia